

## 第2章 那須町のすがた

### 1 位置・面積

本町は、栃木県の北部に位置し、東京都まで約170km、宇都宮市まで約60kmの距離にあります。

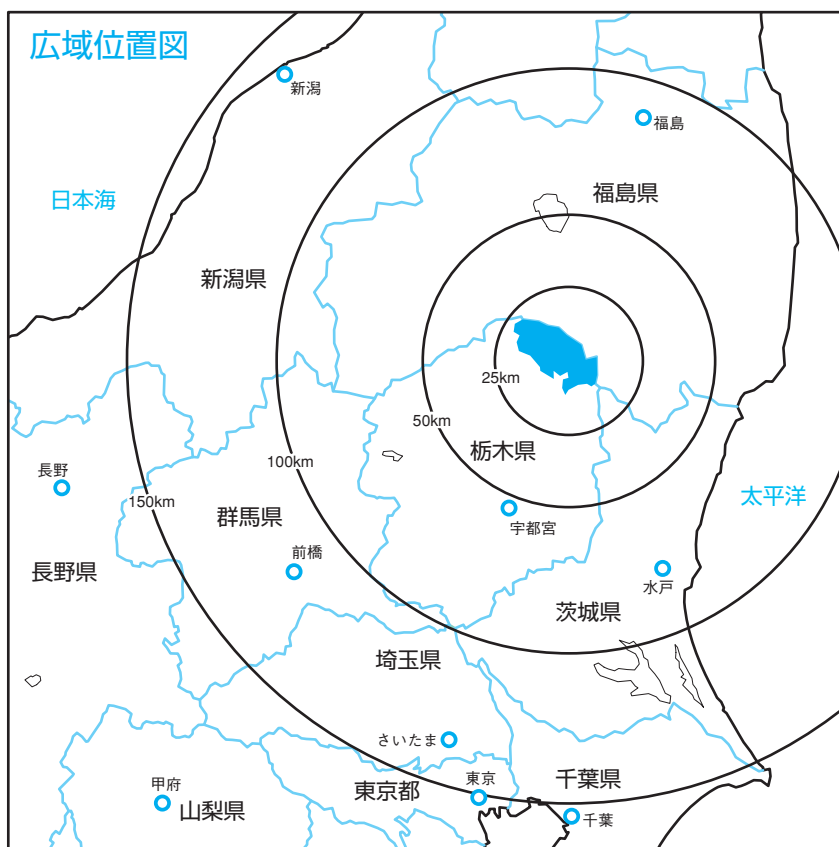
東は八溝山を境に福島県棚倉町及び白河市に、西は那珂川をはさんで那須塩原市に、南は那須塩原市及び大田原市に、北は福島県白河市及び西郷村に接しています。

那須連山と八溝山地に至る広大な町域を有する本町は、総面積372.31km<sup>2</sup>を有し、栃木県の総面積の6%にあたります。

北西部には、今なお噴煙をはき続ける那須連山の主峰、標高1,915mの茶臼岳がそびえ、町のシンボルとなっています。その南斜面は那須温泉郷、レジャー施設や別荘が点在する高原地域となっており、町の中央部は農業地域として首都圏農業の一翼を担っています。

また、東部の八溝山系一帯は、県立自然公園区域となっているとともに、良質な「八溝材」の生産地域となっています。

本町の交通網は、JR東北本線、東北新幹線、東北自動車道、国道4号及び国道294号が町内を縦貫し、特に東北自動車道には那須インターチェンジとE T C専用の那須高原スマートインターチェンジを有しており、広域的な交通条件に恵まれています。



## 2 沿革

本町は、明治22年の市制・町村制施行によって那須村・芦野町・伊王野村が誕生し、昭和29年11月3日に、この1町2村が合併、昭和30年12月には黒磯町の一部を編入し、現在の那須町が形成されました。

合併以来50年を超え、現在では年間500万人が訪れる観光産業を中心に、農業・林業・商工業が相互に連携しあう産業構造となっています。

平成22年4月1日現在の人口は、27,594人 9,721世帯となっており、近年は首都圏から移住される方が増加していることが特徴となっています。

